

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 8月16日

【評価実施概要】

事業所番号	2172700284		
法人名	特定非営利活動法人 まめなかな		
事業所名	グループホームまめなかな		
所在地	高山市上切町80番地 (電話) 0577-37-3200		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター ビーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル2階		
訪問調査日	平成19年8月7日	評価確定日	平成19年9月7日

【情報提供票より】 (平成 19 年 7 月 10 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 10 月 13 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	9 人	常勤 7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	8.2 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 ~ 2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,000 円	その他の経費(月額)	9,000~ 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 250 円
	夕食	250 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成 19 年 7 月 10 日 現在)

利用者人数	8 名	男性 0 名	女性 8 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名
要介護3	1 名	要介護4	0 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83 歳	最低 77 歳	最高 88 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	さもりファミリークリニック、高山赤十字病院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

高山市郊外の田園地帯にあるホームは、古民家改造型の落ち着いたたたずまいである。前面には出穂したばかりの田が広がり、玄関口のイスは広い庇の下にあり散歩の後・食事の後の一休みには好適である。段差や階段はあるが、手すり・スベリ止めも適切に付けられたゆったりした古民家で、若い介護職員の支援を受けながらの老犬等との生活は、利用者のかつての生活の原風景であるかのような懐かしさがある。理事長を中心に職員・利用者を一つ屋根の下で暮らす家族の一員として接し、利用者の高齢化が進んでいく中、少しでも自分で出来ることはやってもらうよう一人ひとりの力量に見合った声かけ、働きかけの取り組みに努力を重ねているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回は改善課題なし。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	過去2回の外部評価における改善課題は無かったが、自己評価についてはその項目をチェックポイントとして評価を活かして運営している。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	会議には行政・地域の人々と家族や、ほとんどの職員が参加し、1年間の検討課題などが話合われている。運営委員会等を通じて行政には積極的に働きかけ、連携が取れてきている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	変化があれば随時、それ以外は定期的に連絡・報告され、ホーム新聞も発行されて料理やイベントの様子を伝えている。運営推進会議などで家族の意見を言う機会もある。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域住民には、地震・水害時の避難誘導の協力をお願いする一方、ホームの収穫祭には招待したりする一方、祭りや公民館清掃活動に積極的に参加して、日頃からの交流を深めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『…地域の中で生き生きと暮らしていけるよう…その方らしく生きられるよう手助けします』という理念が作られ、ホーム内各所に掲示され印刷物にも掲載され啓蒙している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議や日々のミーティングで折に触れ理念を共有し、その実践に努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民には、地震・水害時の避難誘導の協力をお願いする一方、ホームの収穫祭には招待したり祭りや公民館清掃活動に積極的に参加して、日頃からの交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	過去2回の外部評価における改善課題はなかったが、自己評価についてはその項目をチェックポイントとして評価を活かして運営している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には行政・地域の人々と、参加できる家族は2～3家族と、ほとんどの職員が参加し、1年間に計画されている行事予定や検討課題などが話合われている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営委員会等を通じて行政には積極的に働きかけて、連携が取れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	変化があれば随時、それ以外は定期的に連絡・報告され、ホーム新聞も発行されて様子を伝え、ある日の料理も分かる。独り身や家族が遠方の利用者が多く、報告には努力している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などで家族の意見を言う機会が作られている。	○	苦情申し出窓口が、契約書では重要事項説明書に記載とあり、重要事項説明書には別紙となっているので、ともに同一書面内での記載が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常勤職員が多く、また近隣居住者で定着率がよく、職員異動の影響は少ない。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修・リーダー研修・管理者研修など外部研修を中心に積極的に行なっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の支部会議に出席して他のホームとの交流が生まれ、収穫祭のイベントには来所してもらっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居は有料ではあるが行われており、同法人経営のデイサービス経由の入居者もあり顔馴染みの関係が構築されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	肩の張らない・気楽な雰囲気で、普通の家庭のような生活が送られている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩の後の一休みが出来るイスが玄関口に置かれ利用者に活用されている。穏やかな介護に笑顔があった。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意向が汲み取られた上で毎月の職員会議で利用者中心のケア会議が行われている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回は定例的な見直しが行われているが、状況の変化があれば随時見直しされている。朝夕は血圧、体温などの管理が行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の中には当法人経営のデイサービス・宅老所・パソコン教室を利用される方がいる。また、管理者・職員によって他の施設に移られた方や入院された方を時々訪問し見守りされている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の院長(元老健施設長)が当法人理事で、毎週定期的診察や夜間往診もある。利用者も結果的に自然に主治医の変更となった。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化したり終末期には、主治医の判断により病院でという方針である。しかしここ2年間は重度化した事例は無い。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の方のプライバシーに配慮し、家族同様の接し方や方言を交えた会話をする事で、安心につながり、落ち着かれ、認知症の周辺症状がなくなっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	学習ドリルは全員共通で行なわれているが、その他は各自がソファ等で休んだり、TVを見たり新聞を読んだりで自然な感じであった。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	イスに座っている方、畳の上に座っている方などその方なりの姿勢の食事風景である。お茶の準備や下膳は、自分の分だけではなく来客分も当然のように一緒に気を使って行われていた。朝夕は口腔衛生も行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴順をじゃんけんで決める事で利用者同士が声を掛け合い、入浴拒否が少なくなってきた。順番も入浴時の状況によっては適切に変更している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	プランターには朝顔の花などが育ち、手入れの楽しみもある。食堂には利用者の食べたアドガボの種から育ったものや、コーヒーの木も鉢植えされている。玄関口の広い庇の下で犬小屋では老犬がよく眠っていて、食堂からその姿を見ることが出来、心が和む		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブ・買物・散歩と外出することが多く、身体レベルの低下も見られず元気である。周囲は田畑が多く散歩道は多い。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にはセンサーチャイムがあり、日中天気の良い日は開け放してある。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いの火災・避難訓練を実施し、避難には地域住民の協力体制のできる連絡網が作成されている。非常用の飲料水・食料は2日分の備蓄がある。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取・水分確保には気を配っており、特に夏季には夜間水の入った水筒を渡している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	田舎の古民家改造で広い居間が家の中心にあり憩いの場になっている。台所もゆったりしている。二階へはやや急な階段ではあるが元気な利用者には余り苦にならないようである。広い掃きだし窓で田園を渡ってくる風が心地よい。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたもの、衣装ケース、お気に入りの写真を飾るなどその人なりの生活感のある居室になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。